

1. 会社概要・事業概要
2. 2022年3月期決算概要
3. 2023年3月期通期見通し
4. 中期経営計画の進捗
5. ESG・SDGsへの取り組み

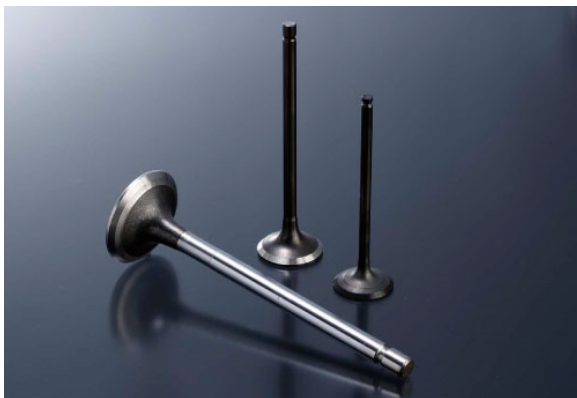


会社概要・事業概要

ー 独立系のエンジンバルブ最大手

会社名	フジオーゼックス株式会社 FUJI OOZX INC.
市場・証券コード	東京証券取引所スタンダード市場・証券コード7299
本社	本社・静岡工場 静岡県菊川市三沢1500-60＜菊川工業団地＞
資本金	30億1,864万円（2022年3月末現在）
業績	売上高：223億円 営業利益：15.7億円（2022年3月末実績）
従業員数	（連結）1,112名（個別）555名（2022年3月末現在）
創業	1952年 6月
主な事業内容	- 各種エンジンバルブその他エンジン関連部品商品、自動車部品の製作及び販売 - 鋼材の加工及び加工製品の販売 - 工作機械の売買、修理、賃貸借及び据付工事請負
大株主	大同特殊鋼(株) 大同興業(株)

- エンジンバルブのトップメーカーとしてシェア約37%（当社調べ）
- 取引先は自動車、二輪、建機、農機、船舶
- 親会社の大同特殊鋼株式会社との共同開発による材料や自社開発の設備、高い技術力により常にエンジンの進化に貢献する製品を提供



エンジンバルブ



中空バルブ



リテーナ

主要得意先 (50音順)

■自動車

いすゞ自動車（株） マツダ（株）
スズキ（株） 三菱自動車工業（株）
（株）SUBARU 三菱ふそう
トヨタ自動車（株） トラック・バス（株）
日産自動車（株） Mercedes-Benz AG
日野自動車（株） UDトラックス（株）
本田技研工業（株）

■二輪車

川崎重工業（株）
スズキ（株）
本田技研工業（株）
ヤマハ発動機（株）

■産機・建機・農機

井関農機（株）
クボタ（株）
（株）小松製作所
三菱重工業（株）
ヤンマー（株）

■船舶

（株）赤阪鐵工所
川崎重工業（株）
JFEエンジニアリング（株）
ダイハツディーゼル（株）
新潟原動機（株）
阪神内燃機工業（株）
三菱重工業（株）

自動車販売台数 需要拡大見込み

	2020年		2030年
新車世界販売台数	0.8億台	+54% ----->	1.2億台
うち電動車率*	15%	+17% ----->	32%

*燃料電池・電気・プラグインハイブリッド・ハイブリッド

出典 経済産業省

自動車産業の構造変化
CASE対応

モビリティ社会の変化
カーボンニュートラルへの対応

- ・コア技術によるエンジンの効率化、環境対応製品の開発
- ・新事業開発による事業分野の拡大

新たな企業価値を創造し、持続的な成長を実現



2022年3月期 決算概要

業績ハイライト

- 売上高 : コロナ禍からの受注回復により前期比+16%の増収
- 営業利益 : 売上高増と決算期統一の影響により前期比+120%の増益

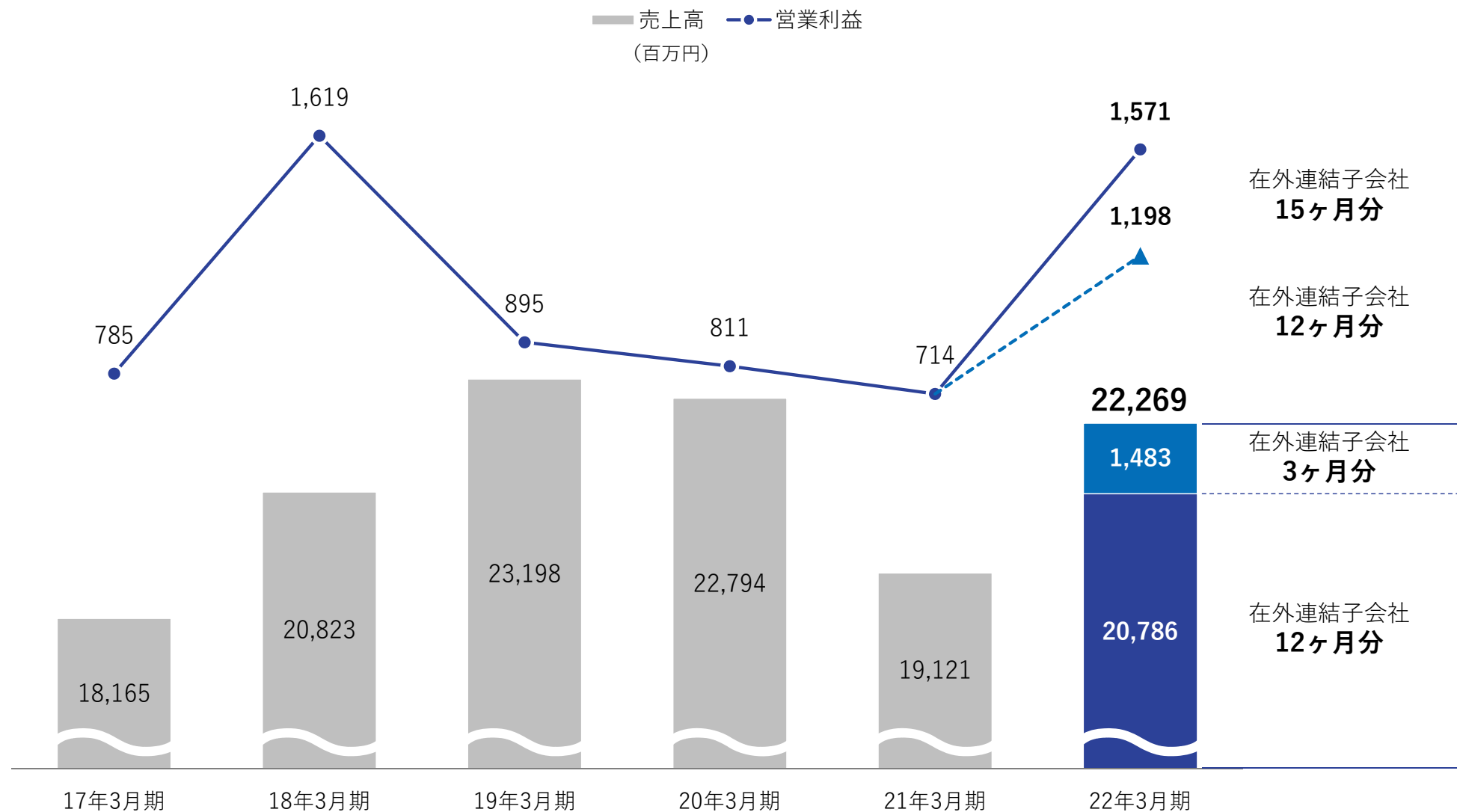
在外連結子会社を
12ヶ月決算とした場合

(百万円)	21年3月期	22年3月期	＜参考＞ 21年4月～22年3月分	前期比
売上高	19,121	22,269	20,786	+3,148
営業利益	714	1,571	1,198	+857
営業利益率	3.7%	7.1%	5.8%	+3.3%
経常利益	828	1,784	1,418	+957
親会社株主に帰属する 当期純利益	614	985	720	+372

※22年3月期は決算期統一のため、在外連結子会社は15ヶ月決算となっております

売上高／営業利益 推移

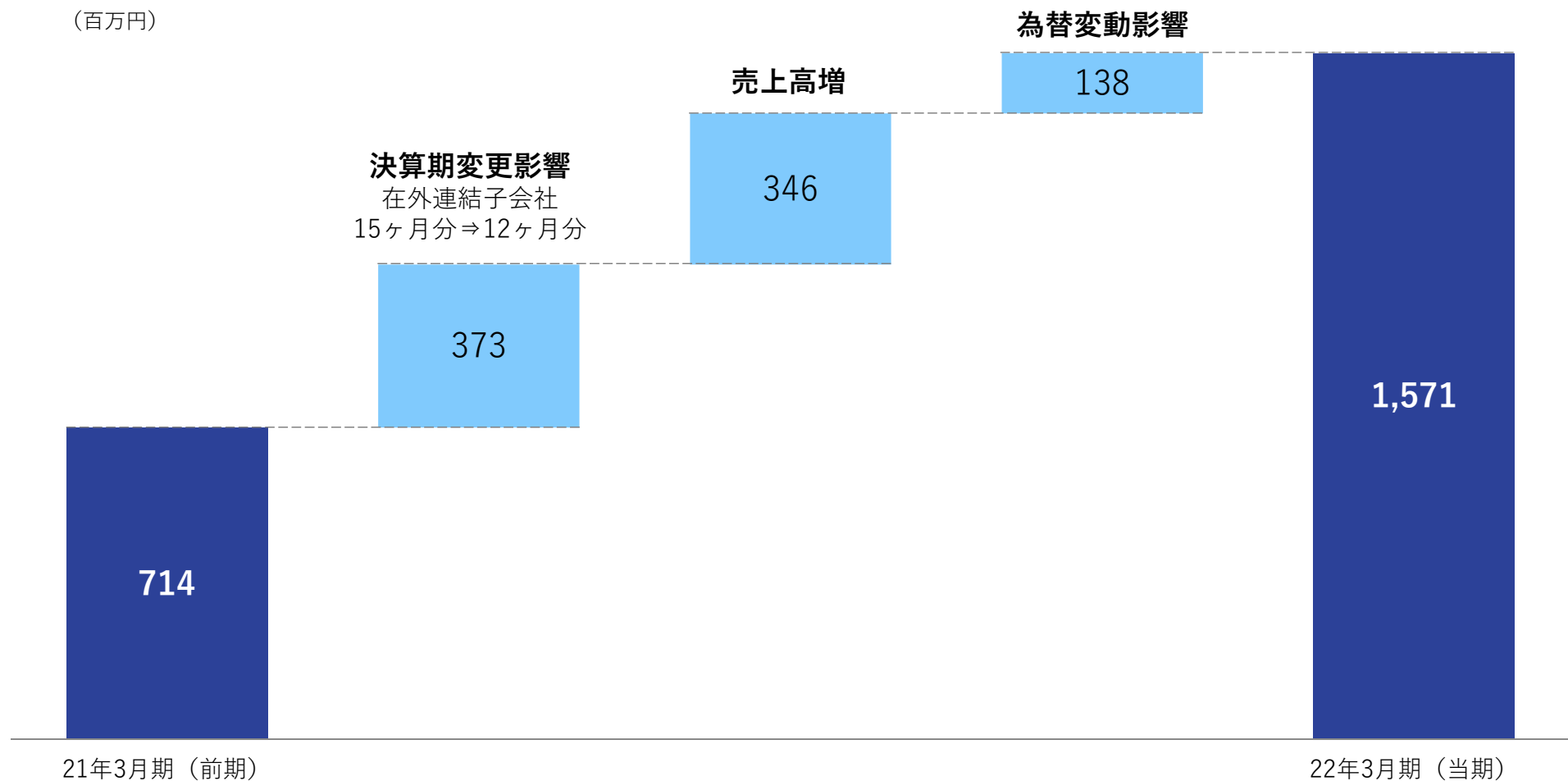
ー 前期比で増収増益（増収は3期ぶり、増益は4期ぶり）



※22年3月期は決算期統一のため、在外連結子会社は15ヶ月決算となっております

営業利益の変化要因（前期比）

- 主な増益要因：決算期変更による影響、コロナ禍からの販売回復による売上高増、為替変動の影響（円安による海外子会社の利益増）



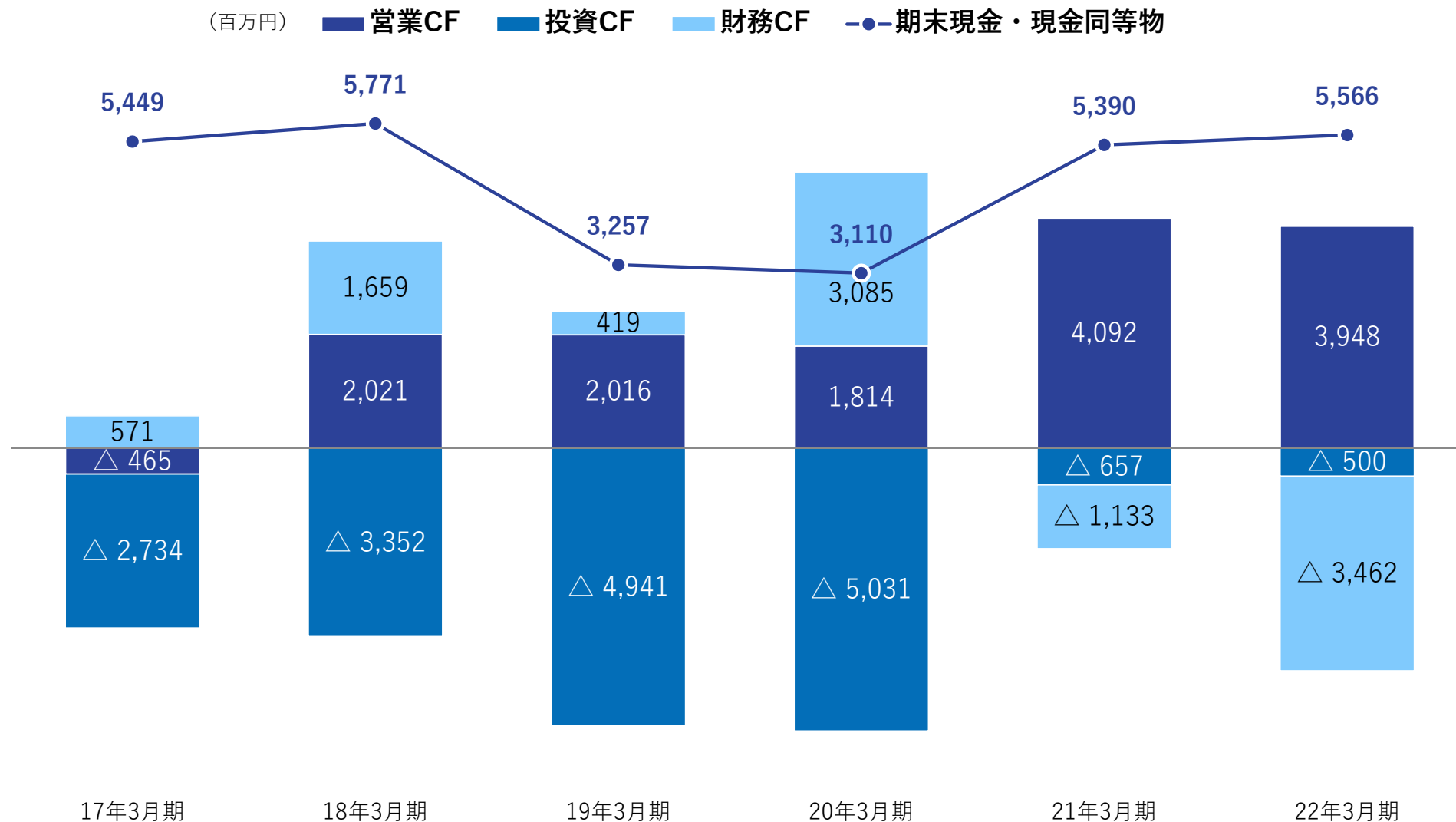
バランスシートの状況

- 借入金の返済により負債が約29億円減少
- 自己資本比率77.6%

資産の部	21年3月末	22年3月末	増減額	負債・純資産の部	21年3月末	22年3月末	増減額
流動資産	15,439	15,412	△26	流動負債	9,023	6,552	△2,471
現金及び預金	5,377	5,546	+169	仕入債務	2,625	2,164	△462
売上債権	4,807	4,571	△236	短期借入金	4,690	2,591	△2,099
△貸倒引当金	△7	△7	±0	一年以内返済予定 の長期借入金	539	297	△242
棚卸資産	5,089	5,089	△1	その他	1,168	1,500	+332
その他	172	213	+41	固定負債	1,210	759	△451
固定資産	20,534	19,260	△1,275	長期借入金	838	295	△543
有形固定資産	19,719	18,553	△1,165	その他	371	464	+93
無形固定資産	90	93	+2	負債合計	10,233	7,311	△2,922
投資その他の資産	725	613	△112	純資産	25,740	27,362	+1,621
資産合計	35,973	34,672	△1,301	負債・純資産合計	35,973	34,672	△1,301

キャッシュフロー

- 設備投資が一巡し、投資効果により営業キャッシュが拡大
- 借入金の返済実施も現金・現金同等物は176百万円増加



※22年3月期は決算期統一のため、在外連結子会社は15ヶ月決算となっております



2023年3月期 業績見通し

業績見通し ハイライト

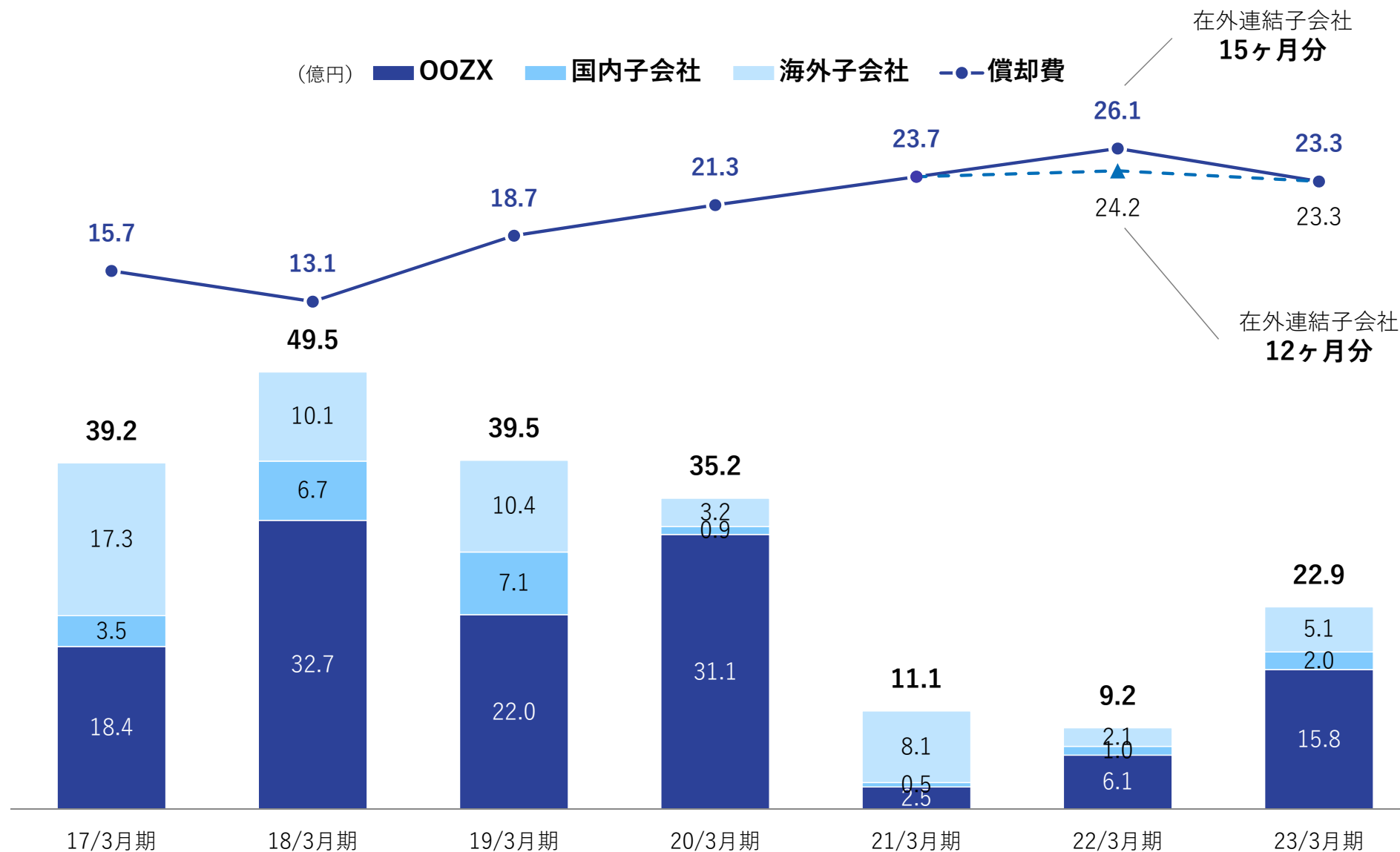
- 売上高 : 半導体不足影響の長期化、中国でのコロナ禍によるロックダウン等により前期比△1%の減収
- 営業利益 : 原材料、電力、資材価格の更なる高騰により前期比△17%の減益

(百万円)	22年3月期	在外連結子会社を 12ヶ月決算とした場合	23年3月期	当期比
		<参考> 21年4月～22年3月分		
売上高	22,269	20,786	22,000	△269
営業利益	1,571	1,198	1,300	△271
営業利益率	7.1%	5.8%	5.9%	+0.1%
経常利益	1,784	1,418	1,300	△484
親会社株主に帰属する 当期純利益	985	720	900	△85

※22年3月期は決算期統一のため、在外連結子会社は15ヶ月決算となっております

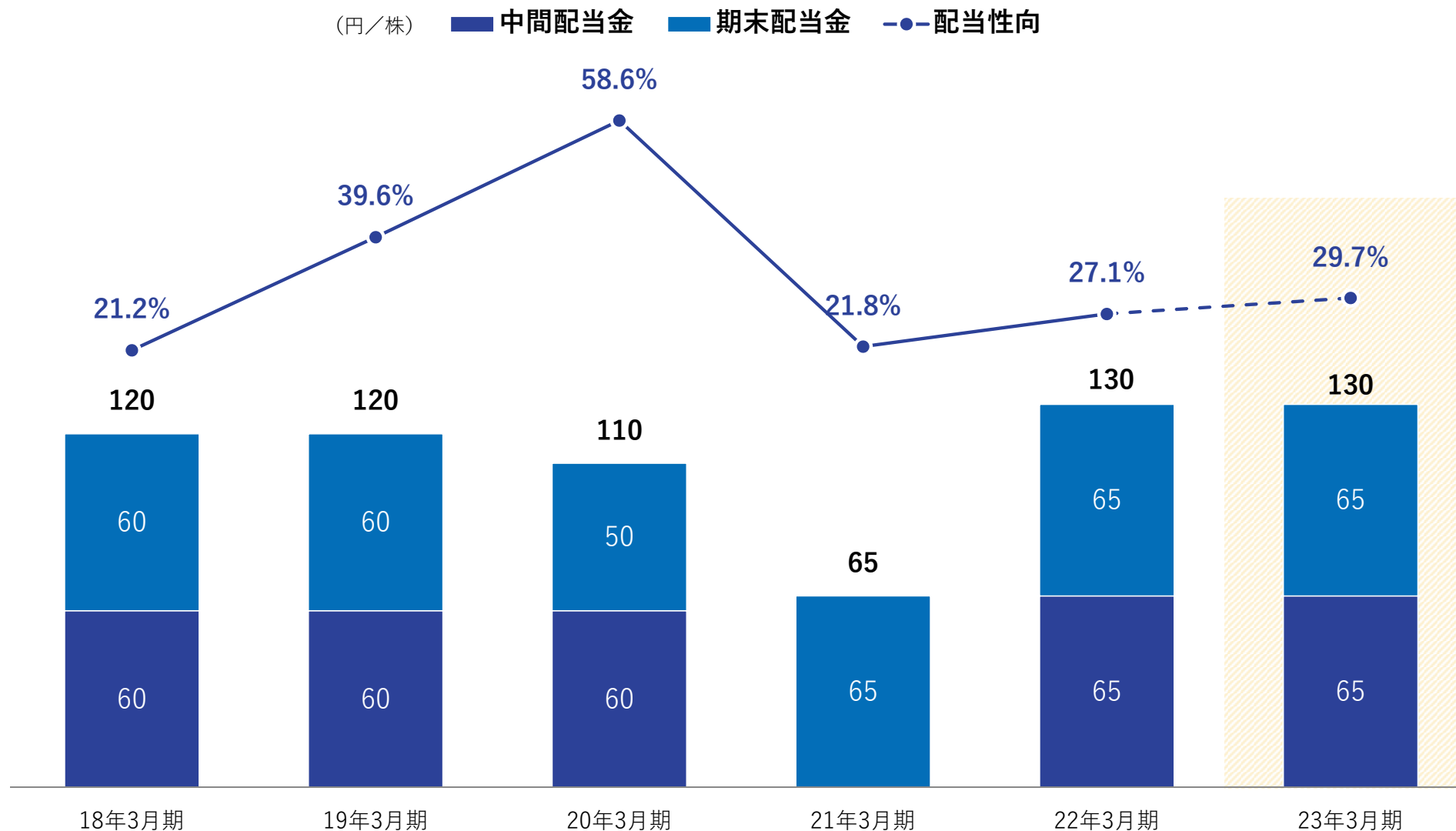
設備投資／減価償却費

ー 設備投資22.9億円（内 太陽光発電システム：約7億円）を計画



※22年3月期は決算期統一のため、在外連結子会社は15ヶ月決算となっております

- 配当性向30%以上を目標に収益力の向上及び財務体質の強化を図りながら、安定的かつ適正な利益還元を実施





中期経営計画の進捗

2023年中期経営計画の進捗

- 22年3月期 : 半導体、部品供給不足による受注回復の遅れにより売上高、営業利益ともに未達
- 23年3月期 : 半導体不足の年度内継続、更なる原材料・電力費の高騰を想定

計画以上の拡販、為替換算差、売価転嫁等により売上高確保も、営業利益は未達見込

(() 内は中期経営企画目標値との比較)

	21年3月期 実績	中期経営計画		
		22年3月期 実績	23年3月期 予想	24年3月期 目標
(百万円)				
売上高	19,121	22,269 (△731)	22,000 (±0)	23,000
営業利益	714	1,571 (△629)	1,300 (△1,100)	2,700
営業利益率	4%	7% (△3%)	6% (△5%)	12%
親会社株主に帰属する 当期純利益	614	985 (△365)	1,300 (△400)	1,900
設備投資額	1,110	920 (△580)	2,290 (+290)	2,000
連結配当性向	22%	27% (+7%)	30% (±0%)	30%以上

※22年3月期は決算期統一のため、在外連結子会社は15ヶ月決算となっております

新分野 = N F (New Field) 3つのアプローチで探索

1. ターゲット **内燃機関部品以外の外販事業**

2. 売上目標 **13**億円/23年度 **100**億円/30年度

項目		2021活動実績	2022活動計画
新分野	NF1 有望企業のM&A 外部提案	- 外部情報ソース拡充 - 企業評価基準確立 - 企業評価実施	最終合意 1件以上 企業価値算定、意向表明、 デューデリジェンス、 シナジー、PMI想定
	NF2 成長分野・シナジーを活かした事業化 社内企画提案	新規事業具体案検討 医療、EV、 カーボンニュートラル関連等	新規事業具体案検討の継続 医療、EV、カーボンニュートラル、 3Dプリンタ、ドローン、 地域貢献関連等
	NF3 連結子会社関係	- デイサービス事業拡充の検討 - 移動コンビニ事業	連結子会社との協業探索の継続



SDGsへの取り組み

新製品開発（鏡面バルブの開発）

- エンジンの熱効率向上に寄与
- 多くの自動車メーカーにおいてエンジン適用の検討段階
- 将来のヒット商品として自動車メーカーへの販売拡大を目指す



カーボンニュートラルへの取り組み①

- CO2排出量の削減目標： △20%（2023年まで）
△50%（2030年まで）

カーボンニュートラルに向けたロードマップ

～2023

～2030

再生エネルギー への転換

①太陽光発電システムの全拠点（※）への導入

②風力発電、小水力発電等の導入

省エネ化の推進

①エア使用ゼロモデルラインの構築

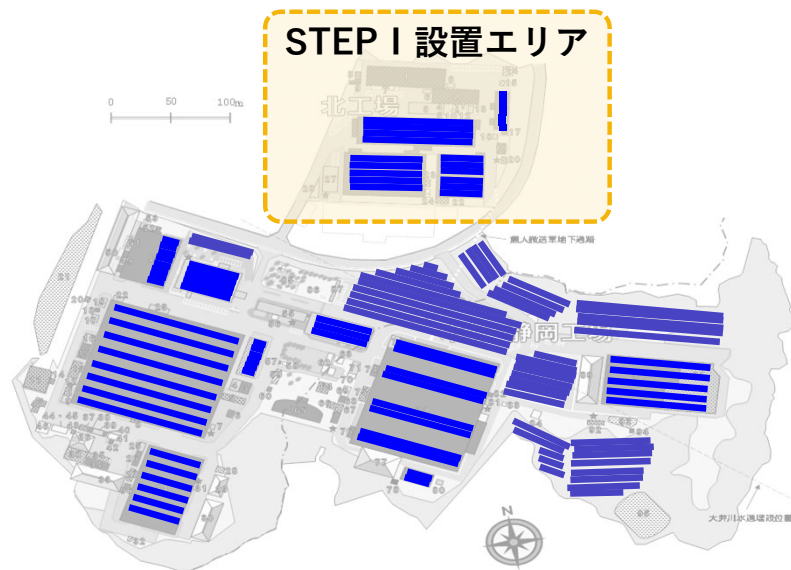
②エア使用ゼロラインの全面展開、LPG代替燃料への転換

カーボンニュートラルへの取り組み②

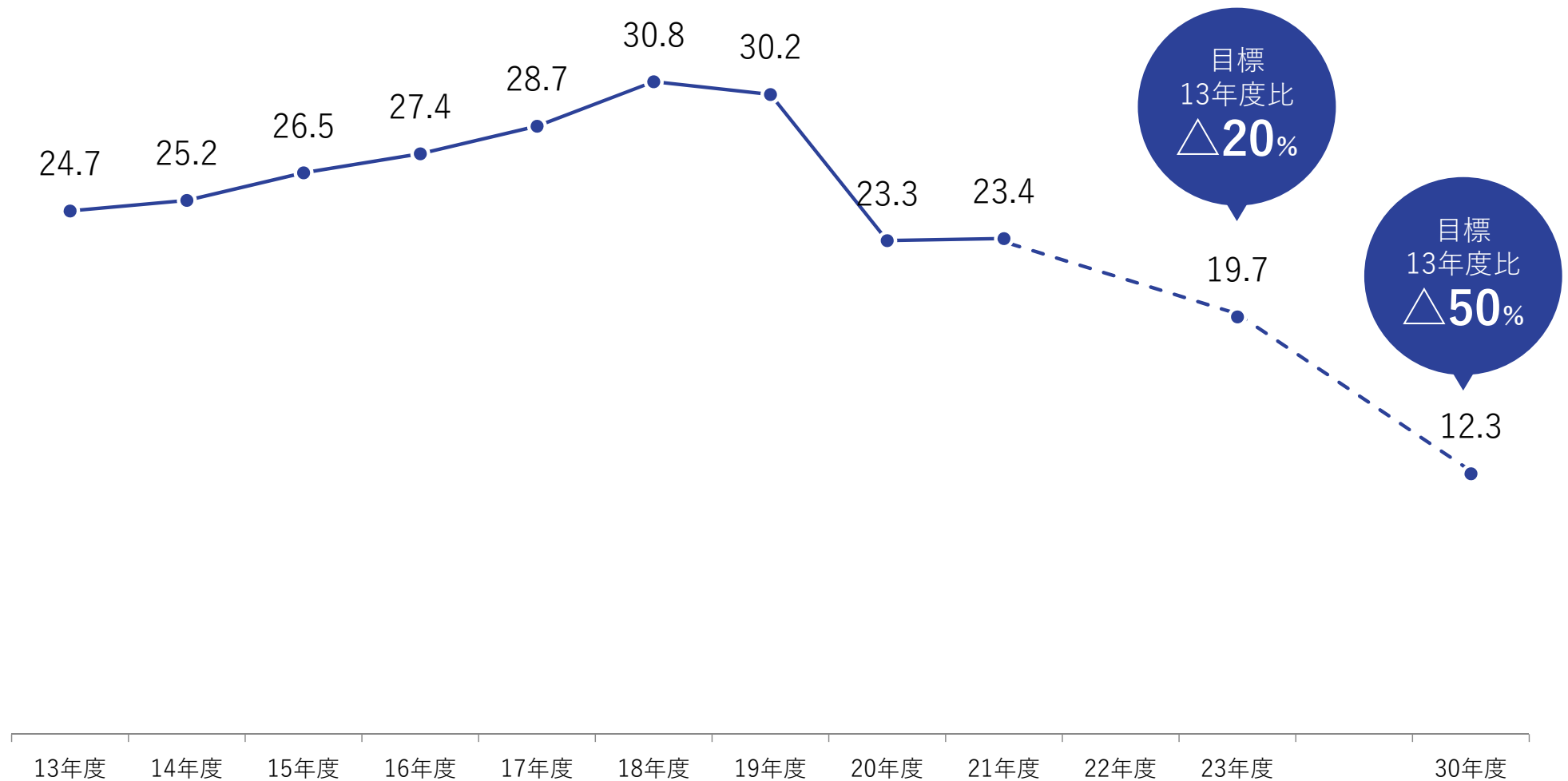
ー 本社・静岡工場に太陽光発電システム設置



本社・静岡工場 太陽光パネル設置予定図



CO₂排出量の推移（単体ベース）
（千t/年）



本資料に記載されております業績の見通し等の数値につきましては、現在入手可能な情報に基づき作成しております。

今後発生する経営環境の変化等により実際の業績が大きく予想と異なる可能性がありますので、投資等の判断材料として全面的に依拠されることは差し控えて頂きますようお願いいたします。

また、今後予告なしに見通し数値が変更されることがあります。

本資料の情報の使用による結果について、弊社は何ら責任を負うものではないのでご了承下さい。

お問合せ先

フジオーゼックス株式会社

経営企画部

TEL 0537 - 35 - 5847

E-mail fuji@oozx.co.jp